



JICAME 通信

JICA カメルーン事務所
2012年12月号 第6号

★★ 12月の予定 ★★

【事業・事務所の動き】

12月10日：棒短期専門家（PRODERiP）
赴任

12月13日：円借款ディスパースセミナー
（於：ヤウンデ）

12月29日 - 1月3日：事務所休日

【出張・休暇予定】

12月17日 - 1月19日：
村上所長：休暇一時帰国

12月21日 - 1月07日：
桑畑企画調査員：休暇

【目次】

1. 第五回アフリカ開発会議（TICADV）開
催に向けて
2. カメルーン国熱帯雨林地域陸稲プロジェ
クト(PRODERiP)サイト視察
3. 第4回 活動紹介「衛生指導」：平成
22年度3次隊 幼児教育 山下 真紀 隊員

「第5回アフリカ開発会議（TICAD V）」開催に向けて

JICA カメルーン事務所長 村上 博信

来年2013年6月に「第5回アフリカ開発会議（TICAD V）」が横浜で開催されます。TICADはアフリカの開発をテーマにした国際会議で、これまで日本政府が主導し、国連、国連開発計画（UNDP）及び世界銀行等と共同で1993年以来5年ごとに開催しています。

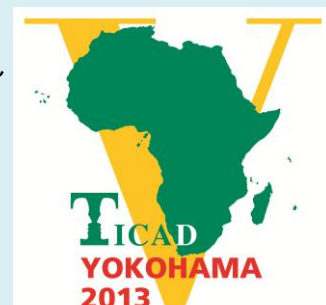
1993年に第1回TICAD会議が開催されてから来年で20周年の節目を迎えることとなりますが、当時貧困の大陸であったアフリカが今は成長の大陸としての注目を得つつあります。アフリカ連合委員会（AUC）が共催者に加わるTICAD Vにおいても、アフリカで今後5年間に質の高い成長を達成していくかが大きなテーマになりそうです。

現在、日本の外務省及びJICA本部でもTICAD Vに向けての準備を進めており、11月上旬には南アフリカのプレトリアで、アフリカの大使館経済協力、JICA事務所関係者及び、外務本省・JICA本部関係者が一堂に会し（村上も参加しました）、ワークショップ形式でTICAD Vにおける我が国支援策・事業計画の検討を行いました。

また、11月中旬にはブルキナファソで共催者や市民社会代表が集まった高級実務者会合が開催され、「強固で持続的な経済」、「包摂的で強靱な社会」、「平和と安定」を3本柱とする基本コンセプトが議論されました。

今後は関係者でさらに議論を進め、来年3月のエチオピアでの閣僚級準備会合を経て、6月のTICAD V本会合で、今後5年間の国際社会のアフリカ開発の指針を示した「横浜宣言・行動計画（仮称）」が発表される予定です。

2013年は再びアフリカが国際社会で注目される年です。カメルーンへの開発・協力事業に携わる皆さんとも力を和せてこの機運を盛り上げていければと思っています。



カメルーン国熱帯雨林地域陸稲プロジェクト(PRODERiP)サイト視察

JICA カメルーン事務所 企画調査員 岡村 真吾

2012年11月8日、9日の二日間に渡り、カメルーン国の首都ヤウンデにて第7回 CARD 運営会議が開催された。カメルーン JICA 事務所にとっては、事務所が立ち上げられた2006年以降、このような大きな会議の開催は初めての経験となった。当会議は、CARD 事務局関係者を中心に会議運営が実施され、当事務所は裏方業務に徹し関係者の協力のもと無事に終了した（運営委員会は、CARD 運営委員会の内部会議のため、その内容は割愛する）。

この会議に合わせ、カメルーン国熱帯雨林地域陸稲プロジェクト(PRODERiP)のサイト視察が、当該プロジェクトの専門家の協力のもと、JICA 本部農村開発部及び CARD 事務局関係者の参加で実施された。

11月10日 南部州エボロワ原種・認証種子生産圃場とングレマコン農村部サイト

11月11日 中央州ヤウンデ原原種種子生産圃場 (IRAD 敷地内)

南部州エボロワ原種種子生産圃場は、2011年後期から種子生産が開始され、現在は2012年後期として3回目の生産が実施中である。カメルーン国では、地理的に南部側は2回の雨季があり、大雨期と小雨期に大別される。このうち大雨期は約4カ月間、小雨期は約3、5カ月が降雨期間となる。このため、降雨期間の短い小雨期は、播種時期が遅れるとその栽培に大きく影響を及ぼすこととなる。



エボロワ原種種子生産圃場では、プロジェクト専門家及び農業・農村開発省のカウンターパートの協力により、圃場で作業を実施する労働者の技術が向上し、また、タイミングの良い栽培実施等によって、今期の生産も2012年前期栽培に続き高収量が見込まれる。

当該プロジェクトは、2012年前期からヤウンデ原原種種子生産圃場にて普及員と中核農家を対象とした稲作栽培の中央研修を実施しており、この研修を受けた普及員と中核農家が、2012年前期から各担当地域(プロジェクトパイロット・サイト)において農家を対象とした現場研修を実施している。

ングレマコンは、当該プロジェクトの10ヶ所のパイロット・サイト(郡レベル)の一つである。今回視察した農村部サイトは、現場研修を実施した圃場及び現場研修を受講した住民の畑である。

当該プロジェクトの対象地域は、陸稲栽培をほぼ初めて実施する住民が多く、陸稲栽培は住民の農業生産品目の一つに位置付けられる。

このため、雨期開始直後に陸稲栽培を実施するか否か(多品目を優先)は住民次第であり、現在のところ、農村部サイトでは全体的に栽培開始時期(播種)が遅れ気味ではあるが、プロジェクトが種子を配布した住民の約80%が栽培を開始しているとのこと。視察したサイトでは、稲の生育状況は順調であるように見受けられた。



圃場を視察する関係者

現在、PRODERiP が開始されて約1年半が経過したところ、住民自身が陸稲栽培を継続し、栽培品目の一つとして定着することが期待される。



圃場視察に参加した関係者一同

第4回 活動紹介「衛生指導」

青年海外協力隊 平成22年度3次隊 幼児教育 山下 真紀

山下隊員は、ヤウンデから25キロほど離れた地方都市「Mfou」で幼稚園4校を受け持ち、衛生指導、図工で折り紙やスタンプ作り、体育でボール遊びやダンスなどを教えています。来年1月の帰国を前に活動内容の一部をご紹介します。

新年度がスタートし9月からの約1カ月間、先生方は毎日のように子どもたちに幼稚園での生活の仕方について伝えていた。手洗い指導もその中のひとつで、おやつの前に先生が一人ひとりに声をかけながら行っていた。

この機会を利用して、先生方に協力してもらい、各園で手洗い指導を行うことに決め、子どもたちが分かりやすいように、パネルや紙芝居を用いて伝えることにした。子どもたちは真剣に紙芝居に見入っており、先生方の問いにもしっかり答えていた。先生方のサポートのおかげで、手洗いの大切さを子どもたちに伝えることができた。



紙芝居を用いて手洗い指導をする山下隊員



子どもと手洗いを実践する保護者

一園では、幼稚園だけでなく各家庭でも意識をもって取り組んでほしいという願いから保育参観を行い、そこで手洗い指導を行った。集まってくれた保護者は、真剣に話を聞いてくれて、実際に子どもと一緒に手洗いをした時も、子どもの横に並んで声かけを行ってくれていた。

幼稚園にも各家庭にも水道があるところはほとんど無く、水の確保は大変だとは思いますが、習慣化していけるように残りの日々も各園で指導を継続していきたい。



現地のリソースを駆使して手洗いを推進している山下隊員



保育参観に出席した関係者一同

JICAME 通信へのお問い合わせは以下までお願いします。

お問い合わせ先 : ca_oso_rep@jica.go.jp カメルーン事務所ホームページ : <http://www.jica.go.jp/cameroon/office/index.html>